

2014 学生スプリントトライアスロン選手権 兼

チームタイムトライアル大会

競技規則（ローカルルール）と主要注意

出場選手は全員事前に熟読してください。

本大会は、日本トライアスロン連合（J T U）競技規則に加え「日本学生スプリントトライアスロン選手権兼トライアスロンチームタイムトライアル大会ローカルルール」を設定して競技を行う。なお、特別に指定された項目以外はいずれの 카테고리にも適用するものとする。

●競技規則・備品について

- ① スイム競技においてウェットスーツの着用を義務付ける。
- ② バイクはロードレーサーでのみ出場を認める。ロードレーサーの定義に関しては J T U 競技規則を参照。
- ③ 周回チェックのため、サイクルメーターの装着を義務付ける。
- ④ ナンバリングの妨げになるようなペインティング・タトゥーシールを禁止する。
- ⑤ ナンバリング前にナンバリングの場所（両腕、両脚）には、ホットバルム、ワセリン、日焼け止めクリームなどを塗らないこと。またナンバリング後に塗る場合もナンバリングが消えないように塗ること。
- ⑥ レースナンバーは必ず審判が視認できるように装着すること。レースナンバーの装着に不備があるとみなした選手にはペナルティーや失格等の処分を下すことがある。
- ⑦ ユニフォームにつけたレースナンバーが、外れるまたは破れた場合、審判・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を続けてもよい。
- ⑧ バーエンドのキャップが外れている場合、レースへの参加は認められない。ただし、テープ等でバーエンドをふさぐ処置をした場合は、エンドキャップについては適格とする。
- ⑨ 表面および内部に割れがあるヘルメットでは出場できない。ヘルメットのチェックは各自で行い、問題のあったヘルメットはレース、練習中問わず使用しないこと。
- ⑩ 個人スプリント選手権の部およびチーム TT の部では、通常のドロップバーハンドルのみ使用可能とする。DH バー（アタッチメントバー、肘当てパッド含む）の装着および使用を禁止する。
- ⑪ 個人オープン部の部においては DH バーの装着を許可する。
- ⑫ 全ての部門において、前輪、後輪共に 12 本以上のスポーク構造をしているもののみ認める。バトンホイールおよびディスクホイールの使用は全ての部門で禁止する。
- ⑬ 本大会では全てのカテゴリーにおいてタイムトライアル (TT) 用ヘルメットの着用を禁止する。
- ⑭ トランジション開放の際、バイクやその他競技備品の回収には選手本人があたり、レースナンバーを係員に提示すること。
- ⑮ 救護にかかっているなどのやむを得ない理由で競技備品の回収ができない選手については、当該選手と同じ大学・チームの者に回収の代理を認める。又、その際は当該選手のレースナンバーなどを代理人は持参すること。
- ⑯ レースナンバーは前後 2 枚の着用を義務づける。バイクシールはバイクの右側に取り付けること。
- ⑰ フロントファスナーのウェアは使用禁止とする。

●伝達事項の告知について

大会期間中のローカルルールやコース、時間の変更等の伝達事項は、大会本部前に掲示する。大会本部周辺に放送で呼び掛けることもあるので、選手は各自の責任で伝達事項について注意を払うこと。

●ペナルティーについて

ローカルルール及びJTUルールに違反する行為に対しては1回につき15秒のペナルティーを与える。

●主要注意

- ①バイクコースの下見は大会前日までとし、その際はヘルメットの着用を義務づける。
- ②競技者以外の者が競技者に競技中にスペアホイールやドリンク（エイドステーションのものを除く）等を受け渡すなどの援助行為を禁止とする。援助行為が認められた場合、選手をペナルティーの対象とする。
- ③競技中においても交通ルールを厳守すること。
- ④リタイアする場合には、必ず本人が大会本部もしくは審判員に申し出ること。
- ⑤校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。ただし、フィニッシュ時のフラッグの受け渡しは許可する。

●スイム競技

- ①スイムエントリー時間を厳守すること。スイムエントリーとはスイムスタート地点でアンクルバンドを受け取り、計測エリアを越えるまでを指す。これに遅れた選手の競技への参加は認めない。
- ②競技中に救助を必要とする場合は片手を頭の上で振り、声を出して救助を求めること。但し、一度救助された競技者は競技を再開することはできない。

●トランジション

- ①競技中以外でトランジションエリアへの出入りの際は、レースナンバーとナンバリングを競技役員に明示すること。
- ②ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかり締めること。バイクフィニッシュ後はバイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- ③バイクをラックに掛けるときは、ラックナンバーが見える側にハンドルがくるようにサドルを掛けることとし、本人が最後までラックにかけなければならない。
- ④競技用具は通路や他の選手の妨げとならないように置くこと。マーシャルは選手の公正な競技を確保する目的で、これを移動させることがある。
- ⑤足が指定された「乗車ライン」を超えてから乗車し、また、指定された「降車ライン」を超えるまでに降車しなければならない。

●バイク競技

- ①スプリント選手権の部ではドラフティング走行を許可する。また、最後尾の競技者は、先頭と基準距離以下に接近した場合、その時点で競技停止(DNF)となり、マーシャルの指示に従ってコースアウトする。
- ②スプリントオープン部では、ドラフティング走行・集団走行・伴走は禁止する。
- ③チームTTの部では、チーム内でのドラフティング走行は許可するが、他チームとのドラフティング走行は禁止する。
- ④警告を受けた選手は速やかに審判員の指示に従うこと。
- ⑤キープレフトを順守すること。
- ⑥個人、チームTTの選手権の部においてのみスペアホイールの使用を認める。各大学の選手権の部への出場者10人につき前後1セットまで認める。ただし、チーム内での共有は禁止する。また、個人での参加者も前後1セットまで認める。

●ラン競技

- ①キープレフトを順守すること
- ②フィニッシュではウェアのチャックを締め、サングラスを外し、観客にアピールすることを推奨する。
- ③スプリント選手権・スプリントオープン部では、意図的な同着は認めない。
- ④一度フィニッシュした選手が再度コース内に入る事は出来ない。

■メディア規制について

- ①大会当日において、大会に関係するいかなる写真・ビデオなどの取材・撮影の際には、必ず大会本部の許可を必要とする。
- ②許可には身分証明と連絡先の提示を要する。これを提示しない者には、大会に関係する一切の取材・撮影活動を認めない。
- ③大会側から取材・撮影に関するデータの閲覧を要求し、大会側がこれを不適切であると判断した場合、データの削除を要求することがあるが、撮影者はこれに応じなければならない。

■その他

- ①本大会は、競技者以外の者が競技者に対して順位などの情報を与えることを認める。
- ②熱中症には十分に注意し、大会前日に水分を多めにとるなど事前に対策をとっておくこと。競技中、審判員及びドクターが危険と判断した場合は競技を中止させることがある。
- ③観客、プレス、主催者関係者、地域住民に注目されていることを認識し、良識ある行動を心がけること。暴言を吐くなどスポーツマンシップに相応しくない行動が見られた場合、ペナルティーが科されることがある。

その他の規則については、J T U 競技規則に準ずるものとする。

日本学生トライアスロン連合審判委員会
jutu08_info@yahoo. co. jp